

暮らしの中のおしゃれな木材 ～森の素敵な使い方～

報告書



豊かな森林づくりのための
レディースネットワーク・21

1 目的

昨今、森林の手入れ不足が叫ばれていますが、森林が健全な状態になるためには、木材を安定的に生産できる体制が必要であり、また、一般消費者が国産材、地域材を選んでくれることがとても重要です。

一方で、消費者は、自分が「良い」と思ったものを選びます。木製品を選ぶときの基準は、「国産材で出来ているから」だけでなく、「デザイン性が良い」「自分の好みだ」という点であることが多いでしょう。

そこで、身近な暮らしの中にある森林の使い方について理解を深めるとともに、様々な木製品やその利用方法に触れることで、森林の利活用の重要性を認識し、森林保全のための具体的な行動へと結びつくことを目的として、フォーラムを開催しました。

2 開催概要

- (1) 日時：平成 24 年 11 月 9 日（金）14:00～17:00
- (2) 場所：伊豆長岡温泉 公共の宿 おおとり荘
- (3) 主催：豊かな森林づくりのためのレディースネットワーク・21
- (4) 後援：林野庁、静岡県、伊豆長岡市、(公社)国土緑化推進機構、
(一社)全国林業改良普及協会
- (5) 参加者：LN21 会員および公募による一般参加者 40 名

| 時間 | 内容 |
|-------------|---|
| 14:00～14:20 | 開会式 主催者挨拶：LN21 会長 須賀 由紀子 来賓挨拶：林野庁 研究・保全課 係長 三浦 康和氏 静岡県 経済産業部林業振興課 専門監 片田 哲利氏 (公社)国土緑化推進機構 基金部長 杉山 隆志氏 |
| 14:20～15:30 | 基調講演 演題：「都会と森をおしゃれにつなぐ仕事の魅力」 講師：川畑 理子 氏 (株)グリーンمام 代表 |
| 15:30～16:30 | リレートーク 「私がかんがえるおしゃれと木材」 講師：げたのみずとり 企画・営業 佐藤 文美氏 柴田木芸社 代表 柴田 政伸氏 プロダクトデザイナー 小粥 千寿氏 |
| 16:30～16:45 | 意見交換・ディスカッション |
| 16:45～16:55 | 講評：静岡県 経済産業部林業振興課 専門監 片田 哲利氏 |
| 16:55～17:00 | 閉会式 |

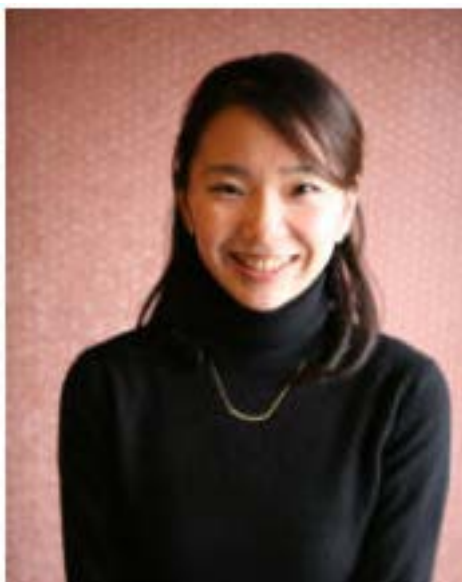
<基調講演>

「都会と森をおしゃれにつなぐ仕事の魅力」

講師：(株)グリーンマム 代表 川畑 理子 氏

(株)グリーンマム代表の川畑理子氏に、国産材コーディネーターとしての役割や、国産材をとりまく状況についてご講演をいただきました。

「動かなければ何も始まらない」と語った川畑氏のお話は、国産材コンサルティングの実態が簡単なものではないという内容で、それぞれが今後具体的な動きをするためにはどんなことが必要か、わかりやすくまとめていただきました。



講師 略歴

速水林業代表 速水亨氏を父に持ち、幼い頃から森林・林業に親しんで育つ。慶應義塾大学卒業。会社勤務－結婚を経て現在子育て中。デパートなどで売られる多くの木のおもちゃを見ながら、本当に安心・安全な木の製品を追求した末、FSC森林 認証製品・国産材製品にたどり着く。手がけた「どうぶつしょうぎ」が、2012年グッド・トイ賞、林野庁長官賞を受賞。

1 講演内容

(1) グリーンマムとは

1年目はFSC材を使ったおもちゃなどの木製品を販売していましたが、二年目から国産材コンサルティングに参入。現在、会社は四年目を迎えます。スープスタンドのSoup Stock Tokyoを始め、これまでに九つの飲食店に、FSC材や国産材の内装を企画・提案・納品しています。

(2) 国産材コーディネーターの仕事内容

まず、木材を使用する予定の企業に営業し、国産材・認証材を使う意義を説明します。予定が合えば山へ案内し、併せて地域や製材所を巡ります。その後、具体的な案件として打合せをスタートさせ、サンプル・見積を作成。

Soup Stock Tokyo ルミネ横浜店は、国産材店舗一号店で、速水林業の FSC 認証材が使われているそうです。(写真1)



写真1 : Soup Stock Tokyo ルミネ横浜店 (国産材店舗一号店)

(3) これまでの実績



写真2 : どうぶつ将棋 特選

2010年8月の、SoupStockTokyo ルミネ横浜店をはじめ、SoupStockTokyo では8店舗に国産材を導入しています。また、「どうぶつ将棋 特選」など、外材から国産材への切り替えもおこなっています。(写真2)

SoupStockTokyo と同じ会社が経営するレストラン、「100本のスプーン」神戸三田アウトレット店では、アクリル材（スギノアカネトラカミキリ幼虫による食痕が残る材）を、白く塗装して導入したそうです。(写真3)



写真3 : 白く塗装されたアクリル材を使った戸棚

(4) 国産材コーディネーターの役割

林業家・製材所・材木屋とユーザー（施工者・発注者）をつなぐのが、国産材コーディネーターの役割（図1）。

地域の製材所や材木屋に連れていくと、林業関係者は価値がないと考えているものが、売れる場合などもあるそうです。また、カタログと価格で外材を選んでいたユーザーが、国産材を選ぶためには、臨機応変に対応していくことが必要であると強調されていました。

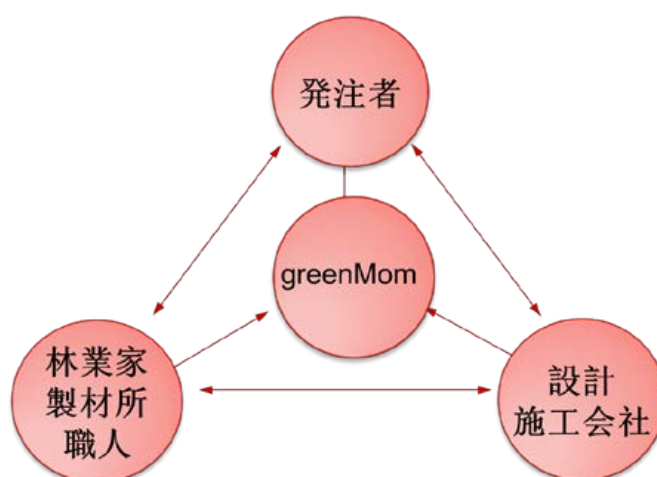


図1：国産材コーディネーター greenMom の役割

<リレートーク>

「私が考えるおしゃれと木材」

講師：げたのみずとり 企画・営業 佐藤 文美氏
柴田木芸社 代表 柴田 政伸氏
プロダクトデザイナー 小粥 千寿氏

静岡県内で活躍する、木材加工品を取り扱う三者に商品・作品を出展し、それに関する講演をしていただきました。

第一印象から良い点を探し、その後、その背景を深めるという手順で、商品・作品に触れてもらうことで、より身近になる感覚を肌で覚えてもらい、持ち帰ってもらうことがねらいでした。

1 「いいね！」探し

まず、参加者は、講師が出品した商品・作品を見て触ります（写真4）。良いと思う点（「いいね！」と思う点）について書き出して模造紙に貼り付けてもらいました。

第一印象で良いと感じる項目を整理する途中、参加者からは、「難しい」と言った声も

聞かれました



写真4：柴田木芸社の商品に触れる参加者

2 講師によるショートトークの内容

各講師に、作品や商品に込めた想いや背景を説明していただきました。

1) げたのみずとり 佐藤文美氏

出品していただいたのは、ヒノキを使った下駄。

サンダルから下駄への原点回帰を行い、20年前から今のスタイルになったことを説明していただきました。洋服に似合うデザインや靴と同じようなサイズ展開など、下駄を「人」に合わせて進化させたとのことでした。

2) 柴田木芸社 柴田 政伸氏

おもちゃ、家具などを出品していただきました。

もともとはつき板業を営んでいた柴田木芸社だが、かわいい木製品を作ろうと現在の展開になったそうです。「温故知新」シリーズを中心に、懐かしいものを新しく提案していくことで、「木がいいね」と言ってもらえるようにしていくとお話していただきました。

3) プロダクトデザイナー 小粥 千寿氏

三角スケールを出品していただきました。

流域ごとに区切った地域の中で、どのような森林が生息しているかを地図化し、それを表した定規を制作しました。この定規から、流域の森林量や上流から下流までの森林分布がわかるようになっており、川の上下流はつながっていることを感じてほしいとおっしゃっていました。

3 「いいね！」を深める

参加者に、講師の話聞いてから、良いと思ったことをもう一度付箋を使って書いていただきました。第一印象として良いと思った点に加えて、背景を知ることによって、「いいね！」を深めていきました。(写真5)



写真5：あるグループの模造紙

さらに、その模造紙を参加者が見てまわることによって、各グループ間の考えの違いを共有することができました。(写真6)



写真6：全体共有の様子

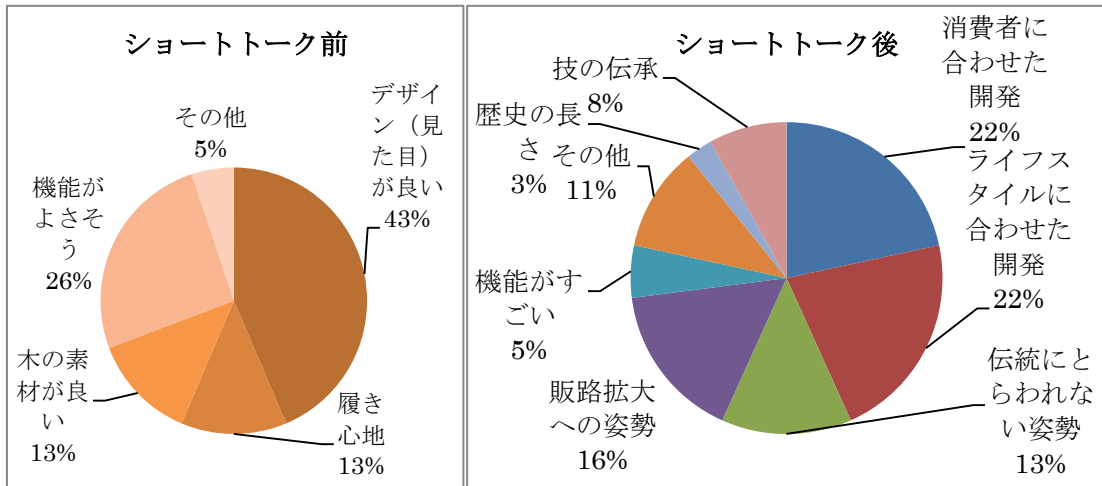
4 いいね！探しの結果

リレートークで出た意見をまとめたものが、以下のグラフです。

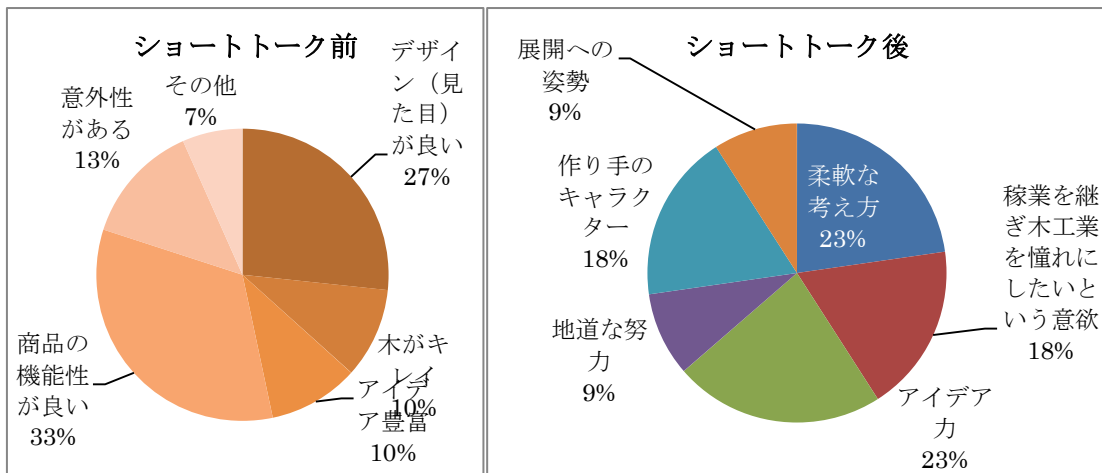
参加者が、商品に対して「いいね！」と感じた項目について書き出してもらったものをまとめています。

ショートトークを聞く前と聞いた後では、商品に対する認識が深まっていることがわかります。こうやって、商品に対する理解を深めることで、より商品が身近になり、「自分のもの化」できたという結果を得ることができました。

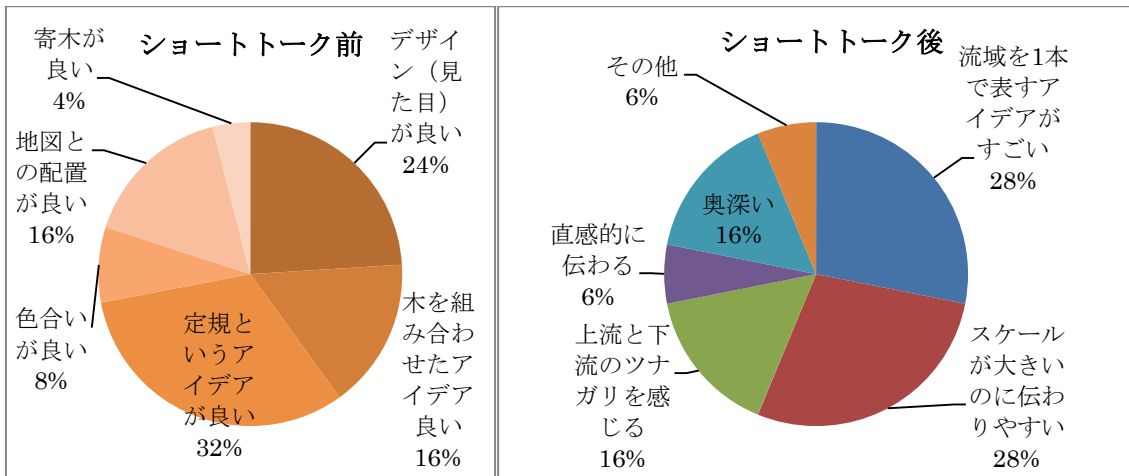
1) げたのみずとり



2) 柴田木芸社



3) 小粥千寿

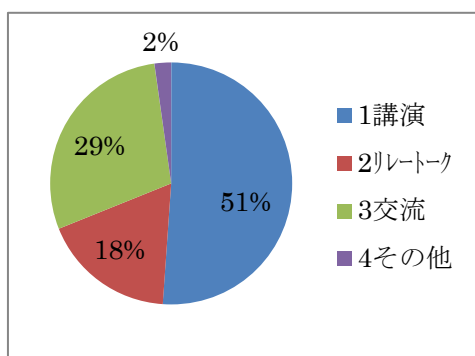


<アンケート結果>

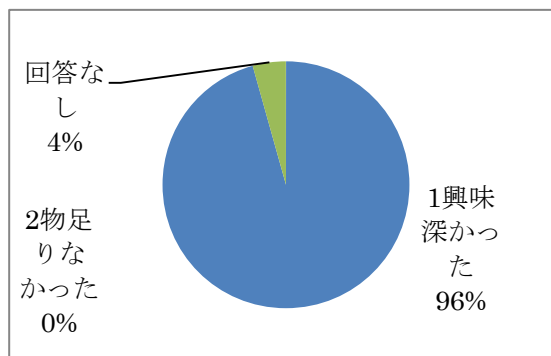
アンケートの結果は、以下のとおりです。

参加者のみなさま、ご協力ありがとうございました。

1 参加の動機



2 感想



3 参加者の声

- ・コーディネーターの必要性がわかった。柔軟なコラボが木材の利用拡大に必要だとわかったのが収穫だった。地元に戻って広めたい。
- ・木材、国産材を使い、いい循環を作るために働きたいという良いモチベーションを持つ機会となった。
- ・林業にはまだ可能性があると感じた。
- ・おしゃれと林業がむすびつかなかったが、なんとなくつながりが見えた。
- ・刺激をたくさんいただきました。下駄がほしくなりました。



全員で写真撮影

<まとめ>

第一印象で、良いと思うものを国産材で作りたい！という思いは、林業関係者にとってはとても強い願いです。しかし、それを実現するためには、行動力が必要であると参加者は実感することができました。また、具体的な事例を多く知ること、自分の身近なところから行動を始めたいという気持ちを持ち帰ることもできました。

おしゃれと林業との関係は、まだこれから深まっていく可能性があるということを示すことができたことが、フォーラムの成果であると考えます。



いいね！ポーズの参加者たち

<終わりに>

このたびのフォーラムを開催するに当たって、たくさんの方々にご協力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

また、参加者のみなさまには、フォーラム運営に当たりご協力をいただき、誠にありがとうございました。